

湯で繋がる家



通りから住宅正面をみる

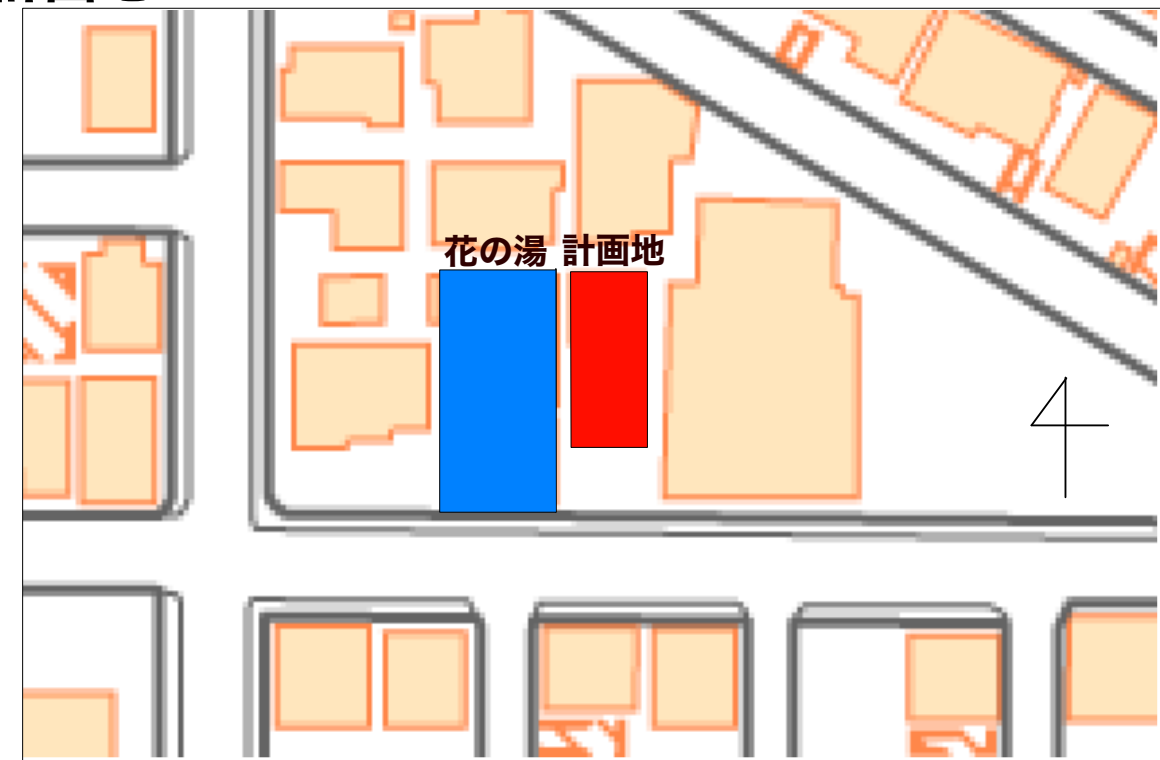
<コンセプト>

宮城県仙台市で昭和13年から続く銭湯「花の湯」の隣に、銭湯オーナーの住宅を設計しました。銭湯の隣という特別な立地を生かして、肉体的、精神的に健康な住宅を目指しました。

花の湯は、浴室、脱衣所、番台というシンプルな構成になっており湯上がり空間が不足していました。そこで住宅の1階に街に開いた広い土間を設けました。これにより銭湯利用者は、広い土間を湯上がり空間として、入浴後の1杯や読書などを楽しむことができますと考えました。このように街に開いた広い土間は交流を深める場となっています。また住宅は広い土間空間があることにより、コミュニティが拡張されます。そこに住む人は様々な人と関わることができるので精神的な健康に繋がると考えました。2階は洗面所や寝室などを配置しました。あえて浴室は設けずに、住人も銭湯を利用するという、銭湯のある暮らしをつくりました。

そしてこの住宅があることにより、街に新しいコミュニティができると共に、仙台市の銭湯が減少しているという問題の解決にも繋がると考えています。

<計画地>



<銭湯の隣の暮らし>

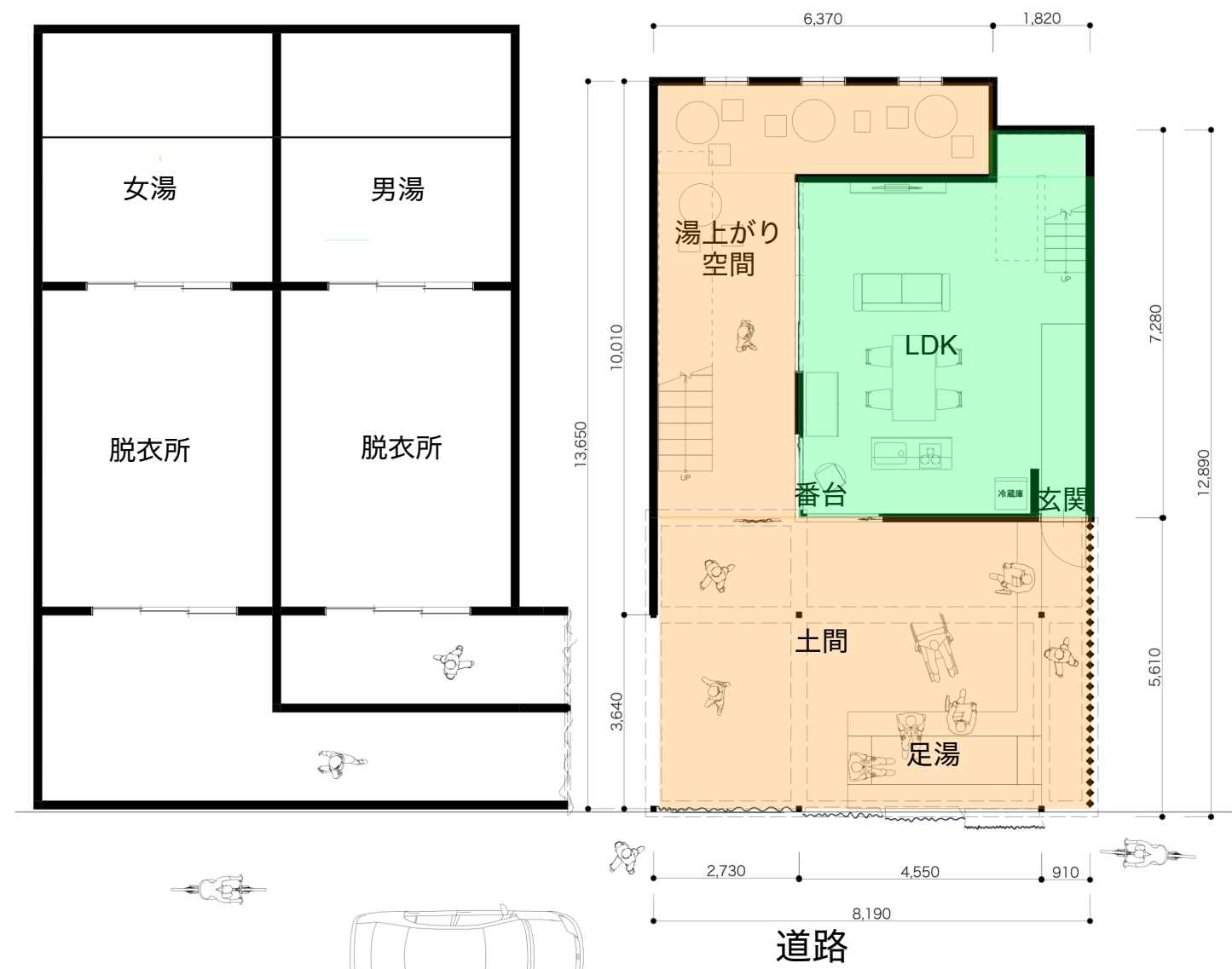
銭湯利用者は広い土間を通り番台で受付をして銭湯を利用することができます。入浴後は湯上がり空間でリラックスすることができます。

住人は銭湯の隣で生活をしながら銭湯利用者、足湯利用者とコミュニケーションをとることができます。その結果、住人は精神的な健康を獲得できると考えています。

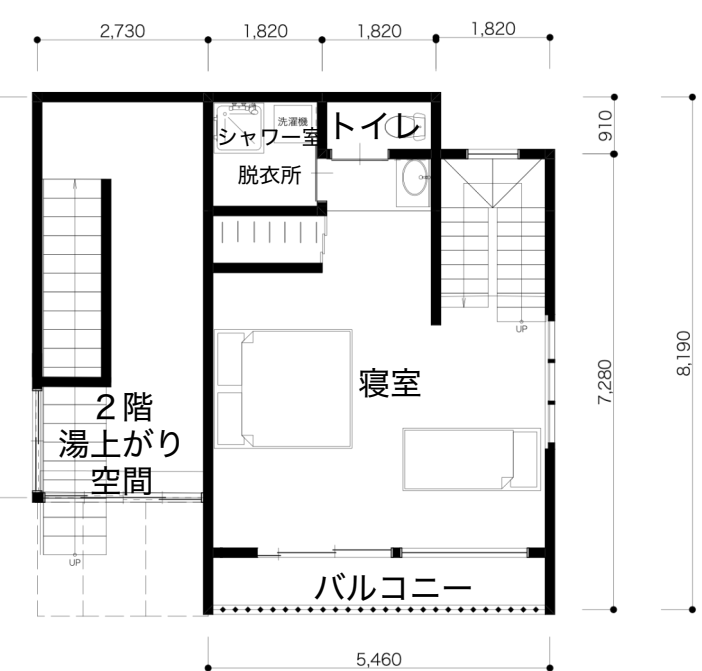
<建築概要>

- 敷地面積：193.7754㎡
- 建築面積：112.4305㎡
- 建ぺい率：58%
- 延床面積：160.0425㎡
- 容積率：83%
- 最高高さ：7.03m

1階平面図 S=1/100

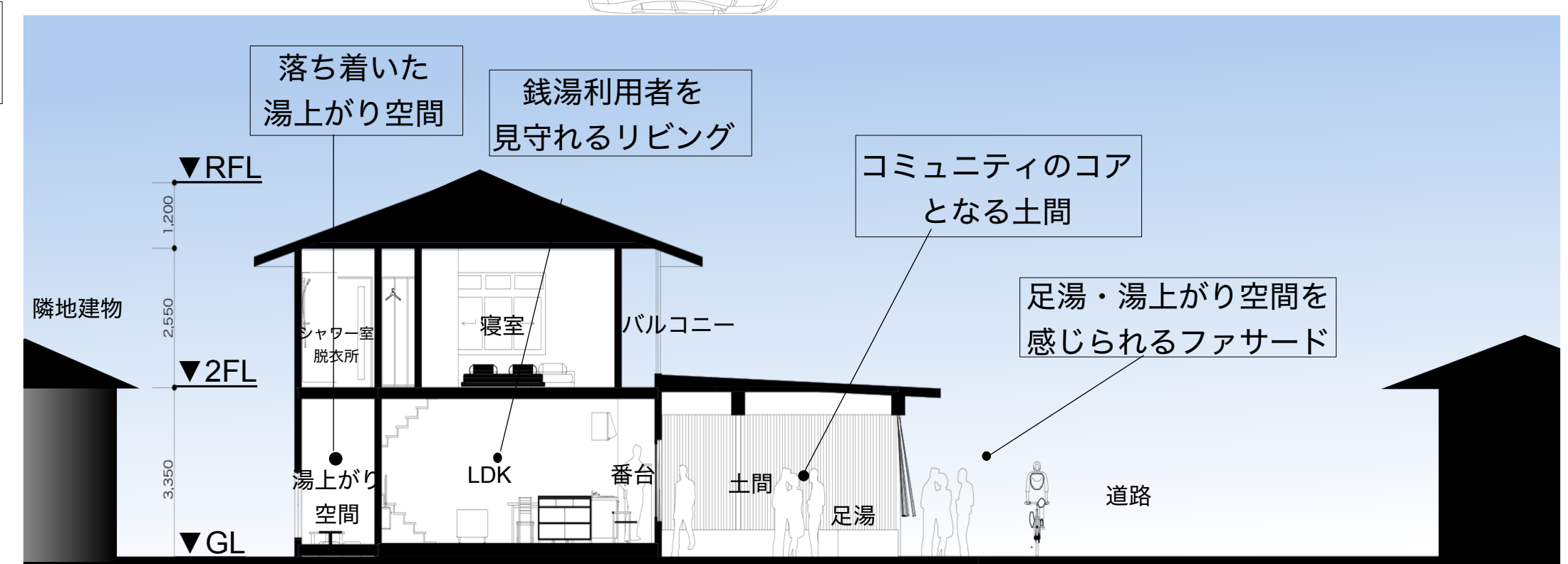


2階平面図 S=1/100

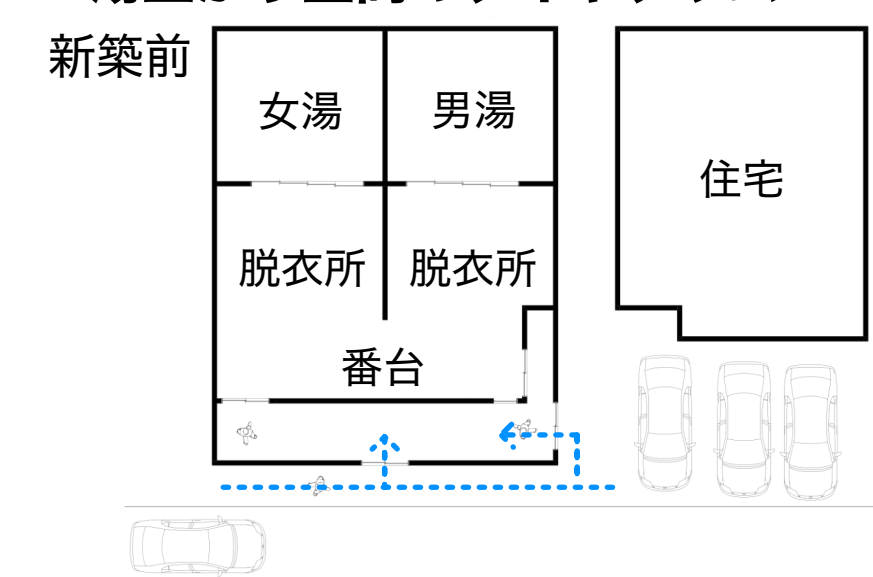


空屋内間
半屋外空間

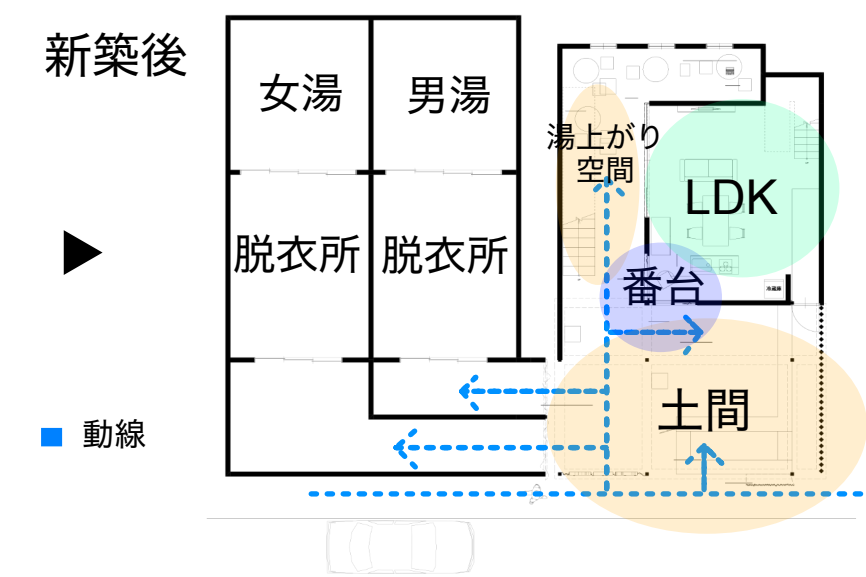
断面図 S=1/100



<湯上がり空間のダイアグラム>



新築前は湯上がり空間が不足していました。



不足していた湯上がり空間を設けました。
また番台を住宅に取り入れ、住人と銭湯利用者が番台を介して繋がる計画をしました。



土間入り口から番台を見る



<広い土間>
街の新しいコミュニティの場となります。



<湯上がり空間>
それぞれの湯上がり空間を楽しむことができます。



<1階リビング>
銭湯の受付と軽食を提供する機能があります。



<2階寝室>
落ち着いた雰囲気の中で体を休めることができます。